

第9回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議  
議事要旨

日時：令和元年6月10日（月） 10：00～11：40

場所：八代市鏡支所3階 大会議室

■やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議 委員（敬称略）

八代市	副市長 田中 浩二（会長）
八代市市政協力員協議会	会長 徳田 武治
八代市商工会議所	会頭 松木 喜一
八代市商工会	会長 建貝 幸一郎
八代地域農業協同組合	代表理事組合長 田島 幹雄
八代森林組合	代表理事組合長 西坂 栄樹
熊本県県南広域本部	総務部長 佐崎 一晴
中九州短期大学	学務部長 教授 川井 健次
八代市金融協会	代表 右田 啓介
連合熊本県南地域協議会	事務局長 花岡 久美子
株式会社エフエムやつしろ	代表取締役 吉住 一郎
八代市保育協会	会長 橋本 守

（欠席）

八代地域農業協同組合	女性部長 澤村 雅代
八代漁業協同組合	組合長 滝川 和徳
一般社団法人DMOやつしろ	代表理事 神園 喜八郎

<配付資料>

会議次第、出席者名簿、席次表

資料1 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

資料2 平成30年度地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点整備交付金事業に係る  
効果検証

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長挨拶

#### 4. 議事

##### (1) 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

- ・資料1 説明（企画政策課）
- ・本資料は、「総合戦略」と「地方創生交付金事業」の効果検証について、流れを示したもの。

##### (2) 地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

- ・資料2 説明（各事業担当課）
  - 海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト（観光振興課・フードバレー推進課）
  - 八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業（商工政策課・企画政策課）
  - コミュニティビジネスによるしごと創生・地域活性化プロジェクト（坂本支所地域振興課）
- ・本資料は、平成30年度に国の交付金を活用して実施した2つの事業と、平成29年度に実施済みの拠点整備事業について、行政内部で各事業の効果検証を行い、事業実施による成果や課題、それらを踏まえた今後の事業の方針について取りまとめたもの。
- ・本日の会議は、委員の皆様へ交付金事業についてご理解を深めていただくため、事業に関する質疑や意見交換を行う。その上で後日、事業評価を賜りたい。
- ・なお、委員の皆様へ行っていただく事業評価は外部検証結果として取りまとめ、本資料に掲載のうえ、市ホームページ等での公表を行う予定。

#### — 意見交換 —

##### ■海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト

○委員：今、新商品開発ということで試飲したトマトカクテルワインについて、斬新だと思った。やり方によっては、ドレッシングに使ったり、料理に使ったり、これ自体はノンアルコールだが、トマトと焼酎なんて、ブラッディマリーとかいうカクテルがあるが、トマトジュース割りだったりする。そういった飲み方を提案するとか、ブランディングをすると上手くいくんじゃないかと思った。ワインテイストの飲み方としては飲めなくは無いんだと思うが、慣れてくればいけるのかもしれないが。コカ・コーラの例もあるので。あと、いろいろと考えてあって、若者向けのパンフレットも作ってあって、内容的にも今の「風」を捉えられていると感じた。ちょっと気になったのは、海外のインバウンド等を考えていると思うが、インフルエンサーというか、どういうふうに分かれていくかが大事だと思うが、他の市町村との競争ではないが、どうやって八代が元気になっていくか。コモディティ化というか、都市部から、外国から見て、どこも一緒みたいになっている時に、どうやってひとつ突き抜けるか。単純接触効果、ザイアンス効果ってやつで、どれだけ人の目に触れるか。SNSとか、職員の方にハッシュタグをつけて貰うとか、発信してもらうとか、ひとりひとりにインフルエンサーになってもらうとか。八代の良い情報を日常的に教えてもらうと、だいぶ周知されてきて、単純接触効果でもコモディティ化された色々なコンテンツの中で選んでもらえるようになるんじゃないかと思う。

○会長：フードバレーと観光の両方の視点があったので、まずフードバレーの方から回答を願う。

- フードバレー推進課：トマトとアルコールの相性というのが人間のアルコール分解にも非常に効果的というデータもあり、健康的にお酒を飲むならば、トマトとコラボというところもあるので、今後、カクテル等、色々な方面にすすめていければと思う。トマトジュースが苦手な方という話もあったが、トマトをおいしく頂くために、カクテルという方向性もあるかと思う。食に関心の高い女性の方、比較的に高齢の方をターゲットとして、幅広くPRを進めていければと思っている。
- 会長：引き続いて観光振興課。インフルエンサーの使い方とか、ブランディングに関しては、どう考えるか。
- 観光振興課：パンフレットと動画を作っているが、SNSを活用している。ホームページに今回作ったものも掲載している。シトラスの方は定住自立圏である八代と氷川と芦北の3市町で事業を実施しているので、3市町で一緒に上を目指すというか、観光地として認知度を高めるということを取組んでいきたい。SNSも地域の方々と連携してより多くの情報を発信できないかと検討を進めている。職員も職場外でも各々で情報発信をしようと取組んでいる。
- 委員：参考までにワインの開発についてお話しする。これはあくまで、熊本でカクテルバーを運営されている方が、たまたま八代がトマトの産地ということで、これを利用したいと。他からもいくらかオファーがあったが、産地として生産できる、持って行くことができるものを作ってほしいということで、トマトワインを作った。本来は、ワインバーとか、焼酎とか、ウイスキーとか、いろいろなものとブレンドしたらいい味がでるんじゃないかと考えている。
- 会長：直接飲むよりも、混ぜて使う方が単価的にも納得できると思う。材料として使うのであれば、これくらいの価格も普通だと思し、使い方を工夫すれば十分いけると思う。
- 委員：八代の観光は課題が大きい。八代市の方、経済開発同友会の方々が努力されているのは分かっている。その中で、KPIである。3つのKPIの中で最も大事なのは、観光消費額だと思う。H28に一度減少しているのは、おそらく熊本地震。事業開始から比較するとH29に約20億円増えて、H30で10億円減っている。ひとくくりで観光消費額ということで書いてあるが、宿泊、物販、飲食、など細分化しないと、どこが問題なのか、どこがうまくいってるのか、わからないのではないかと。もともとKPIのデータの取り方がどうなっているのか、ぜひその辺を生かした具体的な取り組みをお願いしたい。
- 会長：観光振興課より説明をお願いします。
- 観光振興課：KPIの詳細の資料を配付する。日帰り客数と宿泊数の目安の数値と、熊本県の観光統計で使用している日帰りの単価と宿泊の単価を表示している。この単価自体が年度によって大きく動いている。事業開始時 日帰り単価：4,198円 宿泊：12,330円 から、H28は日帰り単価がぐっと減額となり 日帰り単価：3,101円 宿泊：12,963円、H29はまた戻って 日帰り単価：4,261円 宿泊：12,869円、H30はこの調査が廃止となり単価の設定ができないため、H30はH29と同じ単価を使用して、今回の重要業績評価指標を算出している。宿泊費については、H28は熊本地震による工事関係の方が、熊本市内での宿泊ができずに八代市内に宿泊されたということで、グンと伸びている。H29はそれが一旦落ち着いたものの、H30はまた回復している。日帰りについては、H28は熊本地震の関係で落ちているが、H29はクルーズ船が大幅に増えたことで大きく伸びて、H30はクルーズ船が半減したことにより、また減少した。イベント関係も雨の影響で中止になったり、さまざまな要因があるが、概ねそのように分析している。外国人の宿泊については、熊本県全体では伸びているが、県南地域では人吉・球磨のひとり勝ちとなっている。八代は立ち寄りはあるが、クルーズ船はホテルへの宿泊はしないため、外国人の宿泊を伸ばすことを考えていきたいと考えてい

る。

- 会長：積み上げではなく、単価を出して人数を掛けているというやり方になる。
- 委員：詳細についてのK P Iはなかなか取れないということか。
- 会長：エリアを限ると、ひょっとすると詳細にできるかもしれないが、方法的にはなかなか難しいということになる。
- 委員：まち・ひと・しごとで別の自治体に参加したときに、入込客の数値がなかなか取れなくて、いわゆるレジを通った金額で計算をしているというような話を聞いたことがある。最近は携帯電話のデータ等から、だいたい取れるようになったと聞いているが、八代市もそのような取り方ではないか。
- 観光振興課：熊本県の観光統計表を基準に算出している。
- 会長：何らかの形で精度を上げていく必要があると思うが、現時点では統計情報ということで、ご理解いただきたい。
- 経済文化交流部：補足する。観光消費額というのは、宿泊の場合は、宿泊・飲食・交通・土産の4項目の単価を、それぞれの人数に掛け合わせて消費額を算出する。先ほど委員から言われた、それぞれの分析ができないか、それぞれの状況はどうなのか、この辺りについては、DMOやつしろがマーケティング事業を行っている。この細かい分析についてマーケティング事業を通じて、次の展開に結び付けていきたいと考えている。
- 委員：1点目、城下町やつしろ和のまち並み整備事業は、昨年度予算2,000万計上し、決算は770万ということであるが、これは八代市中心街と日奈久の方の和のまち並みを整備するために支出しているということだが、今年度予算は1,000万ということで半分に減った感じはあるが、日奈久のほうに出かけて散策していろいろ見てきて、ばんぺい湯の前辺りもまだまだシャッターが降りているというような状況もあり、「来てください」といって来られたお客さんが、何をどう見ていくのかが、見るものがちょっと。ガイドブックがあつて、案内はあつているところであるが、実際、その見るところとなると中々少ないのかなあというような感じで、ぜひ、整備事業だけは続けていって頂きたいというのが1点。それからもう1点が、こないだスリーデーマーチに参加したときに、東京から参加された方と一緒に歩いた。その方は3泊4日で、八代を楽しみにして来ましたということだった。ちょうど2日目に当たる日だったが、泊まれた旅館で排水に支障があつて、1日目は修繕を依頼したと、2日目も同じような状況だったということで、何とかしてもらいたいという話があつた。リピーターを獲得していくためにも、少しずつでも改修が必要かと。2点、整理をさせていただく。
- 会長：日奈久のどこをどう見るかという話と、旅館のお答えについて。観光部局からお願いします。
- 観光振興課：和のまち並み整備については、事業者向けのものには、自己負担が発生することもあり、資金繰りの関係もあつてか少なかった。団体での申請については、ほぼ補助金で実施できるということで、ある程度の申請があつた。今年度予算は1,000万で、今年度が最後となっているので、日奈久に関しては、団体を含め、全体的な景観をきれいにできないかという相談を早急に諮ろうと考えている。個人での申請については、資金との関係もあつて、なかなか利用が進まないというのが現状である。今年度は本町の方も、通町を入れて、和のまち並みの景観整備ができるように実施する予定としている。あと、本日、配付している資料の「やつしろぷれす」の5月号に、日奈久の方にも最近新しいお店、表紙の「cafe 百年通り」というのは「旅館鏡屋」がカフェを併設して作られている。補助金の有る無し等いろいろあると思うが、「柳屋旅館」が壁を和風できれいに整備されたりとか、「松の湯」の横に「橙」という古民家風のおしゃれなカフェができたりとか。以前は食べる場所がないと、いろいろ問題が言われていたが、いま、日奈久もいろいろこういう飲食店ができたということで

取り上げられた資料もあるので、よりこれが、みなさんに伝わるように今後も広げていきたいと思っている。施設の不備については、組合等通じて、おもてなしの推進というところで研修会等含めて、徹底をしていきたい。

#### ■八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業

- 委員：先週金曜日の八代第三中学校の創立70周年の記念に参加して、子どもの少ないことにびっくりした。我々、団塊の世代の3分の1以下。この子達がそのまま八代に残っても、人口の減少が当然であるが、いかにして、その人たちが八代の中で仕事のしやすい、暮らしやすい、いろんな環境を通して整えてやっついていかないと、これだけ少子化だったら中々定住しない。今現在、高校生あたりの就職状況を見れば、女の子はある程度、地元で定住する傾向があるものの、男の生徒たちはほぼ一回都会に出て、Uターンするという流れがあるが、今後、人間が少ない環境を維持する中、どういう形でこの八代に残ってもらうかと、この前つくづく感じた。今後、いろんなやり方そういうものについて、住み良い街、働きやすい街をとというのが、一番の課題じゃなかろうかと思う。
- 会長：今後の取組として、先ほどの説明に追加があれば、企画の方から願います。
- 企画政策課：私たちも移住・定住という中で、定住というのを取り組んでいる部分である。子どもたちが、八代に残ってくれるようにということで、学生ラボを始めたところであり、昨年が初めての取組であった。この取組は、今年も進めていって、子どもたちがどうやったら定住してくれるか、そういう部分も考えながら、進めているところである。それと、移住となると、いま、東京の方にも移住フェアということで行っているが、なかなか地域間競争が激しくて、移住して来るといった場合は、観光地、天草だとか、阿蘇だとか、そちらの方が強くて、なかなかこちらの方に目を向けて頂けないという部分もある。今、定住自立圏ということで、氷川町・芦北町とも連携してる中で、この広域圏の中に住んでいただくような考え方で取り組んでいるところである。
- 委員：フレシー通信はどこに置いてあって、どなたを対象に配付されているか。
- 商工政策課：市内の教育機関、市役所関係の、人が多く出入りするような施設のほか、企業説明会の場等で配付している。
- 委員：先ほど子どもが少ないということで、その子どもたちが八代で就職する、定住するとなったときに、県の調査では、就職をするときに仕事のやりがい以外に何を求めるかというときには、給与とか、職場の人間関係、福利厚生、会社の将来性、安定性等、そういう結果が出ている。労働環境というか労働条件というか、その辺りをきちっと、企業の方でも「ちゃんとうちの企業はこういう福利厚生面はばっちりやってますよ」とか「年休取得はパーセントはすごいあがってます」とか、そういう特徴とか魅力とかを訴えていくことも必要なのかなと思う。
- 委員：時代が、働き方改革という形になって、各企業が非常に見える化をしないといけない時代になってきた。そういう意味では、企業間の競争というのが出てくると思う。それは企業間であり、地域間であり、Iターン、Uターン、地元で生まれ育った人たちが一旦は都会に出て、節目節目というか、帰りたいと思うときに、タイムリーに、地元の企業の働き方改革の競争を、ちゃんとこういうのがありますよと提示できれば一番良いと考える。私のところに、つい先日、京都に勤めてる八代出身の人がきた。この人に聞いても、やっぱり同じようなことを言われる。その人も店長として非常に活躍しているが、やっぱり最終的に地元に残りたいということであった。だんだん核家族化で一旦は都会に出て帰ってきたい人がこれからも出てくるだろうから、そのときにきちんと、そういうメニューを示すことができるか、受入企業があるか、本人の能力を生かすことができるかというのが、企業のこれからの選択ではなかろうかと思う。そういういろんな諸条件を、いわゆる働きやすい会社とやりが

いのある企業、働きがいのある企業になれるかどうかは課題であろうというふうに思う。今回のツナガルインターンシップが各企業を外に出して、それぞれが条件を見せる、非常にいいことじゃないかと。しかし一方で、なかなか成果が分かりにくい。PRはしても、このツナガルインターンシップ事業で戻ってきたとか、働いたとか、具体的な実績が分かりにくいというのがある。将来、この事業が、立ち立ちできるような、自立できるような形になるかというのが大きな課題ではないかというふうに考えている。

- 会長：今の意見であるが、そういう企業からの考えについても、事務局と十分意見交換し、実の有る事業に育てて行って頂きたい。
- 委員：今、インターンシップというのは、どこもメインは日本人であるが、昨年11月、出入国管理法の改正ということで、特に、農業の分野への外国人の技能実習生の受入れが、恐らく進んで行くのではないと思う。農業に限らず介護の分野も同じであるが、外国人の受入れに対して、国の方としては、自治体でいろんな生活の支援とか、相談とかいうようなことに積極的に政策を打ち出すようにという国の施策が出ているが、八代市は、どういう方向性を持っているのか、お聞きしたいというのが1つ。それと、中吸収短期大学にタイ、カンボジア、ベトナム等から留学生が来る。委員のところで、タイの留学生がインターンシップを経験した。そのほか、久留米の方にインターンシップに出した。これは、雇用促進センターとのつながりで、委員が積極的に関わっておられるが、そういった意味で、定住とかあるいは移住というのが、自治体間の競争が激しいということで、今年度来年度に向けて方向性がそんなに明るい兆しがないのであれば、今、非常に問題になってる出入国管理法あるいは入国管理法の改正に伴う全国的な流れに対して八代のあり方というのももう少し真剣に考える必要があるのではないかと思うため、その点についての意見を伺いたい。
- 会長：商工政策課より願います。
- 商工政策課：市内企業を、かなり多く企業訪問させて頂いているが、外国人の方がかなり多く入ってこられている状況と認識している。また、このツナガルインターンシップ事業の委託をしている、八代圏域雇用促進センターの方でも、外国人の受入等に関しての研究を今年度から行っていくというような事業計画にしている。私ども商工政策課としても、外国人の皆さんを企業とどうマッチングしていくかという部分について、研究を進めていきたいと考えている。中九州短期大学には、長期のインターンシップを使って頂いているというところで、外国人の方たちを引き続き、地域で受け入れていけるようにサポートしていきたいと考えている。
- 委員：今、熊本県内に、6,300人(500事業所)の外国人がいるそうである。そのうち1,700人くらいが八代で、八代が1番多いとのこと。そのほとんどが農業研修生である。最近、いわゆる各企業に、私のところにも4名いるが、ここで課題がある。「受入機関」である。「送り出し機関」、出先の海外の「送り出し機関」と日本の「受入機関」があり、「送り出し機関」で、いわゆる日本に行きたい人たちを研修するが、その際に借金をする。そして、実は不明なのは日本の「受入機関」。これは民間であるが、これをぜひ、八代圏域雇用促進センターあたりが半公的機関として、受入窓口になると「見える化」になって非常にいいと思う。一番の課題は、「仕送りをしないといけない」という不明確な部分であり、ほんとにそれがキチッと仕送りされているのか、なんとなく分からない中で、それを追求できないままにいるというのは非常に悩ましいところである。これからまた、間違いなく建設関係、土木関係が外国人が入っているようなので、増えていくと思うが、ぜひ、ツナガルインターンシップや、フレッシュのほうで、これも一緒にやっていければという風に思う。
- 委員：えらいことを一つ言う。やはり若い世代を惹きつける。仕事、地方にも作ると。それでは行政

の皆さん、どっぷり浸かっておらずに、頑張ってくださいよ、お願いします。それだけです。

○会長：委員の意見と併せて、商工政策課から願います。

●商工政策課：委員の意見を踏まえて、フレッシュの方で外国人の受入機関、窓口の機関として、機能できるかどうかも含めて、今年度調査研究したいと思う。

○委員：外国人が、おそらく八代だけで、農業ですが1,200人~1,300人くらいいらっしゃるんじゃないかと思う。その中に、今度国がまた改正をして、今までは、1回行ったところには、それ以外は仕事ができなかったが、一つのやり方として国が決めたのが、派遣法的な雇用の方法である。受入団体の農家に派遣するやり方があったが、ただこれを、このままにしていたら、何も変わらない。それにこの登録機関について、私もいつも県との話の中で、登録機関は果たしてどこがつくるかという話になる。当然として県からは、「団体で作ってください」とのことで、この前われわれの団体でも「登録機関を作りましょう」となったわけだが、これから先、登録機関を通して実習生を雇用する場合、どこでもできるような形になると、おそらく八代で千何百人かの実習生が皆さん、登録機関を通して仕事をしたいということになる。それで今、非常に課題として考えているなかで、ぜひ、この登録機関・登録組合について、事務的な手続の簡素化が必要であると考えている。人間ばかり雇って、大変なことにならないかと思っている。これからはじまる、最近国が決めた制度なので、それにのっとなって、やらざるを得ないということで、私たちも思っているが、行政の仕事に対する簡素化の指導をぜひ、お願いしたい。一人当たり、書類を大量に作らないといけない。いま、ちょうどうちの担当がやっているが、非常にこれが大きな課題である。さらに研修あたりいろいろあるが、今後、農業のみならず、いろんな業界の実習生とか、派遣とかいう形で入ってこられる可能性が十分ある。今後、市のほうでも十分聞かれた中で、まず最初に、いろんな国の方がいらっしゃる、その対応ができる語学が出来る人がいないとまず困る、いろいろ課題がある。十分今後、検討をお願いしたい。

○会長：県と話をされていたとのこと。状況がわかるようであれば、委員、願います。

○委員：特に今のところ、情報はない。色々調べて、一緒に考えていきたいと思う。また、新たな作業が始まるということで、なるべく簡素化したいと思うので、一緒に考えたい。

○会長：よろしく願います。それから先ほど、委員の方からあった外国人の生活の支援について、ああいった部分は八代市が今、国際ビジョンを作って、これから色んな支援をしていきたいと思っている。国際課も新しくできたので、そういった個々の暮らしやすい、八代に来られてからの、快適な、不安無い生活ができるようなということで、今、国際課で準備している。

#### ■コミュニティビジネスによるしごと創生活活性化プロジェクト

○委員：坂本の「鮎やな」で食べてはいないが、あそこに入った経験から、建ってしまった後には何ともできないが、最初に、一番良い場所に、見えるところに作らなかったのかと思う。あの物産館の裏に造ってあると、なかなか一つのアピールする要因がまったく無いと。確かにあそこの園庭の中に、川を見ながら食事するのは良いかもしれないが、情報の発信で、見て楽しんで、非常に行きたいって環境を作ってやる必要が、「鮎やな」の場所ではなかったのかと思ったが、今後いろんなかたちで、なかなかいい発想の中でやられてると感心して見てきたので、今後ですね、開業される場合は、そういうことを念頭に置きながらやっていかないと、せっかくの持った施設の宝が腐れてしまわないかと心配している。

○会長：のぼり旗を立てて、目立つような工夫もしている。物産館との連携も一つはあったかと思う。

○委員：この地域活性化プロジェクトは、道の駅さかもと館だけなのか。これからまた、他の例えば泉地区とか、とにかく、坂本も泉も人口減少が激しい。商工会としても、たとえば88年続いたお店を辞めるとか、とにかく会員の減少が激しいので、この道の駅さかもとだけじゃなくて、他のところにもこの地域活性化プロジェクトは立ち上げてもらえるのか。

○会長：企画政策課より願います。

●企画政策課：コミュニティビジネスは、今、各まち協を中心に広がっている。坂本だったら、この鮎やなであり、東陽あたりもいろんな山村活性化事業を使って、商品開発等されている。東町においては、炭を使って、コミュニティビジネスを図ろうという考え方がある。ただ、いろんなアイデアはいっぱいあるが、その中で地方創生拠点整備交付金まで使って、するかしないかというのは、ひとつのハードルがある。ある程度アイデアが固まって、資金が相当必要になってくるということであると、この事業を使って、坂本の鮎やなみたいな事業の展開は予想される。どこでも、これは使うことはできるので、地元の方がやる気で、そういう使うか使わないかで変わってくるし、当然私たちもそれについては、アイデア等を出し、協力をしていくということ考えている。

○会長：もし、何かこういうのをやりたいと、地域内でビジネスやって収益上げていきたいということであれば、気軽に企画の方にご相談頂きたい。

○委員：もう1点。八代散策ガイドだが、これはしっかり、良いものである。私、勉強不足かもしれないが、初めて拝見したが、なんで泉町エリアが番外編になっているのか。私たちは泉町に、ものすごい力を入れて、いろいろ立ち上げているのに、なんで泉町エリアだけ番外編なのか、お聞かせいただければ。

○会長：観光振興課より願います。

●観光振興課：クルーズ船のお客さん向けに作っているものであり、クルーズ船で、泉まで日帰りになるもので、行って帰ってくるというのは、なかなか難しい。これは、今回クルーズで来たお客さんが、次に来たときに使っていただければというところで、載せている情報である。クルーズ船は朝入って、八代への滞在時間は短い場合は半日しかない。朝早く入って出る場合でも、8時くらいには降りて、夕方には帰ってくるというような形になるので、番外編というような書き方をしている。クルーズ船で八代に来たときに散策ガイドを貰って、それをもとに、次に八代に来たときには、こういうところにも行って欲しいという意味で掲載しているものである。もともとがクルーズのお客さん向けに作っているため、こういった表示の仕方になっている。

○委員：クルーズ船対応ということで、理解した。

■その他（本日説明した3つの事業について言い忘れ等あれば）

○委員：この八代8 DAYSという冊子ですが、大変良く作ってあると思う。今、幼児教育から大学まで教育の中でアクティブラーニングというのが一つのキーワードになっている。これはもう、近視眼的な見方で見たら、若い人たちに八代で仕事してもらえるように、外に出てもUターンで帰ってきてもらえるようになってというのが目的の主眼の1つなのかもしれないが、長いスパンで、アクティブラーニングだと考えて、効果が1年とか単年度で出なくても、しばらく続けていってほしいと思う。これやることによって、自分がなぜ学校で学ぶのかとか、どうやって働くのかというのを自分が主体となって学ぶ、それがその子の生きる力になって、それが先ほどのコミュニティビジネスみたいな話が出たが、地域で何かビジネスの立ち上げとか、場合によってはベンチャー、本当に夢は大きく持ったら、あのG A F Aってみなさん聞かれたことあると思うが、G o o g l e とか A m a z o n とか



Apple とか、第二のマークザッカーバーグとか、スティーブジョブズが八代から生まれてきたら良いなって大きな夢をもって、こういったことを続けていって、教育としての視点も持って、続けていっていただければと思う。そういった視点でもやってらっしゃると思うが、これを特に言い忘れてたので。

○会長：ありがとうございます。せっかくエールを頂いたので、商工政策課から願います。

●商工政策課：若いうちから、八代の魅力であったりとか、八代の企業とか、八代に愛着を持ってもらうために、その事業等を知ってもらうことがあるべきだと思っている。八代圏域雇用促進センターも、今まで高校生を対象としていたが、中学校とか、対象を広げていきたい、もっと低年齢層から働きかけをしていこうという動きになってきているので、今の意見をもとに企画政策課と連携しながら、子どもたちにそういうのを意識してもらう取組をやって行きたいと思う。

○会長：八代圏域雇用促進センターもどんどん進化していくということで、お願いしたい。

○委員：八代散策ガイド、非常に良く出来ているので、クルーズ船向けのだけではなくて、全体の観光向けに、ぜひ作って欲しい。プラス、氷川・芦北も一式に追加したい。そうすれば非常にこう、観光に広がるんじゃないかなと思う。あのDMOやつしろの範囲もこの範囲まで広げられたらいいんじゃないかなという気がしております。よろしくおねがいします。

●観光振興課：ぜひバージョンアップして作って行きたいと思う。

## 5. 閉会

(企画政策課)

- ・別紙「評価票」により事業の評価をお願いしたい。事業の評価にあたっては、本日の説明、意見交換の内容も踏まえて記入いただき、6月26日までに提出いただきたい。
- ・評価票をもとに、効果検証結果をとりまとめ、市ホームページにて検証結果の公表を行う予定。
- ・次回の推進会議は、10月頃の開催を予定。